



東地中海地域ニュース

パレスチナ：アラブ連盟緊急外相会合の開催

(6月16 - 17日付現地紙)

1. 決議の概要 (エジプト各紙):

- (1) 6月15日夜、アラブ連盟外相理事会はカイロの本部で緊急会合を開催し、パレスチナで発生している事態の「事実調査委員会」の設置などを内容とする決議を採択した。同委員会の報告書は、決議採択から1ヶ月以内にアラブ連盟外相理事会に提出される。
- (2) アラブ諸国外相は、パレスチナ内部での殺戮行為の停止を強調し、ファタハとハマスの双方に対して、パレスチナでの殺戮行為の完全且つ継続的停止を求めた。
- (3) アラブ諸国外相は、ガザ地区内で行われている犯罪行為を非難し、ガザの情勢を内紛発生前に戻すこと、西岸でいかなる暴力行為も禁止すること、西岸、東エルサレム、ガザでのパレスチナの統一維持を求めた。
- (4) アラブ諸国外相は、アッバース議長率いるパレスチナ暫定時自治政府の正当性の尊重、選挙で選ばれたパレスチナ立法評議会を含めて、PLO から派生したパレスチナ暫定自治政府の正当な諸機関の尊重を強調した。
- (5) アラブ諸国外相は、パレスチナ治安機関を構築し、治安機関がパレスチナのいかなる勢力からの干渉も受けずに役割を果たす必要性を強調した。
- (6) アラブ諸国外相は、アラブ・イスラエル紛争に対するアラブ和平イニシアティブに基づくアラブ諸国の立場を強調した。
- (7) アラブ諸国意外相は、パレスチナ情勢悪化の責任はイスラエルにあるとし、イスラエルに対し、パレスチナに対する攻撃の即時停止を求めた。
- (8) アラブ諸国外相は、和平プロセス活性化の必要性、アラブ和平イニシアティブを含めたこれまでの合意に基づいて、明確なタイムテーブルの枠組みで全てのトラックにおける交渉再開の必要性を強調した。

2. サウード・サウジアラビア外相の発言 (「リヤド」紙)

- (1) 本緊急会合は、ガザ地区におけるファタハとハマスの戦闘で、パレスチナ人が直面している悲劇への対応と中東和平全体について協議するものである。
- (2) いったい、パレスチナ各派指導者たちは、カアバ神殿の前、地上で最も神聖なメッカで、アッラーに誓いを立てた者たち、クルアーンに手を置いて、一致団結してお互いに闘わないことを誓った者たちであろうか。

- (3) 同胞パレスチナ人たちは、今般の戦闘でパレスチナ人の間に不和の種を撒き、鬨いの火を煽ることこそが、イスラエルが静かに安心して生活できる方法であると考えイスラエルの夢を実現することになった。パレスチナ人は、今、中東和平の再生に自分自身でとどめの釘をまさに打ち込もうとしているのだ。
- (4) パレスチナ人がその兄弟を殺して得るものにどれほどの価値があるのだろうか。パレスチナの同胞は、メッカ合意を堅く守り、実行しようとしており、この争いは中東和平の崩壊以外の何もかもたらさないということを認識しつつあった。パレスチナ闘争の歴史は、最近の出来事で汚され、過去長期間にわたって流されてきた殉教者たちの血は無意味になりそうである。
- (5) 我々は、争っている者たちに解決策を提示する必要はないと考える。むしろ、彼らが紛争を鎮める解決策を見出すことを期待する。今般の争いにおいては、勝者も敗者もなく、皆等しく損失を蒙っている。現状の継続は、何もかも侵食する内戦へと発展することになり、中東和平問題を葬り去り、罪のない全てのパレスチナ人がそのつけを払うことになる。